

第4回 静岡市駿府町地区文化・スポーツを核としたまちづくり懇話会 議事録

1. 日時、場所

平成30年1月23日（火） 13時30分～15時00分

静岡市 青葉会議棟（旧青葉小学校）3H

2. 出席者

【委員】

大橋 弘、桂田 隆行、菅野 秀之、久保田 隆、坂井 文、一言 太郎、増田 匡彦、若月 均（全8名）

【事務局】

静岡市企画局アセットマネジメント推進課
（株）日本経済研究所

【オブザーバー】

静岡市観光交流文化局

3. 議事次第

- 1 開会
- 2 挨拶（静岡市公共資産統括監）
- 3 議事
 - （1）事務局説明
 - （2）各委員発言
 - （3）討議
 - （4）総括
- 4 閉会

4. 配布資料

- ・次第
- ・【資料1】委員名簿
- ・【資料2】静岡市駿府町地区文化・スポーツを核としたまちづくり懇話会 説明資料
- ・【資料3】参考資料（委員のみ配布）
- ・【資料4】席次表

5. 議事録

1 開会

- 司会進行は静岡市企画局アセットマネジメント推進課長が行った。

2 挨拶

- (静岡市公共資産統括監より挨拶) 本日は、3回目の懇話会にて示させていただいた複数案へのご意見に対する回答をお示しするとともに、交流人口への影響予測や経済波及効果といった数値的な検討もご報告したい。本日はそれらについて忌憚のない意見をいただきたい。
- (アセットマネジメント推進課長より発言) 本懇話会の設置目的は、有識者の皆様からご意見を聴取する場であり、何か結論をまとめる場ではないということをご理解いただきたい。事業化に向けての検討においては、本懇話会で頂いた意見や課題を庁内で十分に議論して進んでいきたい。

3 議事

(1) 事務局説明

- (アセットマネジメント推進課より【資料2】を説明)

(2) 各委員発言

- (委員より発言) アリーナそのものの収支や日数の議論は出尽くしたと考える。今後は静岡市民の皆様にとって有益なコンテンツや日数を埋めるイベントは何であるかというようなことについて、個々の議論になるだろう。静岡であればコンサート利用で何日埋まるかといった計算をすることは困難で、仮説として本懇話会で示されたような収支パターンがあるということで十分だろう。総論として異論はない。一応、利用料金収入のシミュレーションにおいて採用されている単価の査定について、詳細をご説明いただきたい。また静岡においては、駐車場だけでなく駐輪場についての議論もあるとよいのではないか。
- (㈱日本経済研究所より説明) 利用料金収入の単価を説明。全て全日利用を想定した単価である。
大ホールについて、音楽・舞台興行利用の場合は土日祝日で約77万円、平日で約64万円。MICE利用の場合は土日祝日で約51万円、平日で約43万円。市民利用の場合は土日祝日で約20万円、平日で約16万円。
中ホールについて、音楽・舞台興行利用の場合は土日祝日で約40万円、平日で約34万円。MICE利用の場合は土日祝日で約27万円、平日で約23万円。市民利用の場合は土日祝日で約8万円、平日で約7万円。
5,000席規模のアリーナについて、プロスポーツ利用の場合は土日祝日で約125万円、平日(練習)で約13万円。アマチュアスポーツ利用の場合は平日で約5万円。音楽興行利用の場合は土日祝日で約125万円、平日で約104万円。MICE利用の場合は土日祝日で約63万円、平日で約52万円。
7,000席規模のアリーナについて、プロスポーツ利用の場合は土日祝日で約179万円、平日(練習)で約19万円。アマチュアスポーツ利用の場合は平日で約7万円。音楽興行利用の場合は土日祝日で約179万円、平日で約149万円。MICE利用の場合は土日祝日で約89万円、平日で約74万円。
- (委員より発言) 単価の設定等に違和感はない。

- (アセットマネジメント推進課より発言) 駐輪場について、静岡市では自転車の利用も多いという状況も踏まえ、施設の配置等を検討する中で、駐輪場を確保できるかという検討も進めていきたい。
- (委員より発言) アリーナコンサートに来るのは、静岡市民や静岡県民だけではない。県外から来る人も多いということを考慮して駐車場計画や公共交通機関への誘導をするべき。エコパアリーナでは4,500台の駐車場があるが、メインアリーナとスタジアムの同時イベントは行わないようにしている。やむなく同時イベントを行ったこともあるが、コンサートの開演が30分遅れてしまった。回遊性や公共交通機関の活用という観点ももちろん重要であるが、駐車場がない場合のデメリットという観点についても来年度以降にぜひ検討してもらいたい。一方でホールコンサートについては地域からの来場者が多く、駐輪場は非常に重要である。
- (委員より発言) Bリーグの場合、リーグ戦は地域からの来場者が多く、駐輪場も活用されている。また熊本で3,500人規模のオールスターイベントを行った際には、来場者のうち半分が熊本県内から、残りは県外、特に関東圏からであった。県内の来場者のうち自転車の移動圏内でなく車を利用したい方もおり、バランス感は重要である。ただし熊本での当該イベントにおいては、関係者以外には駐車場を用意せず、一般の来場者には公共交通機関の利用を案内していたが、特に問題はなかった。Bリーグとしては、駐車場に対してあまり強いこだわりは持っていない。
- (委員より発言) 先日2,000席規模のイベントが行われた際には、終演が21時くらいであったが、あっという間に人が捌けた。現市民文化会館の東側から北街道へと多くの人が徒歩で流れていった。2,000人がこれほど早く捌けるのかと驚いた。現在検討されている施設規模はこの4倍ほどになり、規模的にエコパアリーナが参考になると思うが、エコパアリーナの場合はイベントが終わってから他に行くところがなく、皆が必ず車に乗り込んでいくという状況にある。その点で当施設はメリットがあると考えられる。また施設が出来るまでにかなりの時間を要すると想定され、その間にITや新しい交通機関への考え方には変化があるだろうから、研究しながら検討していくことが必要だろう。施設周辺の動線がP.5に示されているが、駅から施設への動線も知りたい。8,000人の人の流れが見えると、まちづくりに生かすこともでき、北街道の再興も期待できるだろう。
- (坂井座長より発言) 駐車場のシステム化は進めていくべきだと思う。また駅から施設までの動線については、他の部署とも連携しながら検討することが来年度の課題だろう。
- (委員より発言) 今後は施設単体で考えるのではなく、「I Love しずおか協議会」や地域の活性化、空き店舗の活用の検討会など、まちの活性化とセットで考えていくことが重要だろう。事業計画の検討において、最大値で考えるのではなく、ストレスをかけた収支計画・経済波及効果を検討するのがよい。また静岡マラソン2017や静岡ホビーショーのアンケートを参照されているが、もう少し多くのサンプルを参考にするとよい。
- (アセットマネジメント推進課長より発言) 今後基本構想を進めていく上では、本エリアは第3次総合計画において歴史文化拠点と位置付けられており、市民文化会館の整備はその中の一つの要素として、各部局と連携しながら検討していきたい。
- (アセットマネジメント推進課より発言) 収支計画・経済波及効果について、頂いた意見を参考に検討を進めたい。
- (委員より発言) P.4(1)④について、一般的には2,000席のホールは全国ツアーで利用される施設であり、静岡は全国ツアーで選ばれる地域なのだということが分かった。今後は施設のベストミックスを検討いただきたい。控室と会議室を融合する、または控室にはシャワーが必要なため会議室とは融合できない、といったようにバックヤードの融合化を図って床面積の問題を解決してもらいたい。

- （委員より発言）P.3 に示されている施設配置について、敷地面積等の色々な制約がある中で、一つの敷地に機能が集約しすぎているような気もする。何かの機能を削るということも重要な決断である。現時点で国内には、ベストだと言える、成功している 5,000～10,000 席クラスのアリーナはないと思っている。ぜひ静岡市の当アリーナが好事例となるように、都市型アリーナであるマディソン・スクエア・ガーデンや地方型アリーナである Q アリーナ（クリーブランド／クイッケン・ローズ・アリーナ）など、視野を広げて海外の好事例も参考にしてもらいたい。
- （委員より発言）今後の人口確保や人口減少に伴う地域経済の在り方が課題であり、当施設がこれらの課題解決の起爆剤と位置付けられることは大前提となる。地域のキャッシュフローを活性化するためには、今後、コンテンツ産業が重要になると考えている。そのコンテンツ産業を行うための、経済のスタート地点となる施設に対して公共投資を行うことには一定の妥当性があるというのが、アリーナ整備の基本的な考え方である。その際、いつ来てくれるかわからないコンサートよりも、Bリーグのように定期的に興行を提供してくれるコンテンツは地域の長期的なキャッシュフローにつながる。他の公共施設と比べて、スタジアムやアリーナはそういった経済性との関係性が強いのではないか。市の産業や経済からの観点も持つておくべきだろう。またストックマネジメントの観点から、公共施設の総床面積を減らしていくという方針のなかで、このアリーナを作ることで他の施設をどうするのか、全体のバランスについても整理していく必要がある。立地適正化計画や中心市街地活性化などの施策とともに本施設の役割を議論する必要がある。また地元の方々との連携も重要である。駐車場が1つの大きな論点となったが、静岡市民は他の地方都市と比較してあまりまちなかに車で来ていないようにも感じられるので、交通分担量調査をふまえて検討していく必要がある。P.4(1)①について、建築士などの専門家でなくユーザーの意見を聞かなければならない。管理運営について今回の懇話会では十分な検討がなされていないと感じる。海外では、アリーナの運営自体をコンセッションとして、全イベント共通のチケットを販売してアリーナの収益とする事例もあり、貸館にとどまらず自主事業の想定も必要である。次の段階では一歩踏み込み、このアリーナをどのように運営し、稼いでいくか、ということにも触れてもらいたい。
- （アセットマネジメント推進課より発言）交通について、自動車分担率は静岡市内の場合 47～49%だが、中心市街地は 23%と他都市に比べて低い。このことも考慮して駐車場や駐輪場の検討を、駅から当施設への動線の検討と併せて進めていきたい。また北街道については、都市局とともに、北街道の歩道の幅員、アーケード、電線の地中化の可能性など、魅力空間創出方針の検討に取り組んでいる。御幸中央通りから中堀沿いにくる敷地については、歴史文化施設の整備、お堀の水を活用したにぎわい空間の創出を進めている。そうした本施設まで来るいくつかのアクセスについての魅力空間の創出に関する取り組みも併せて実施していきたい。また運営計画について、頂いた意見を参考に検討を進めたい。利用料金についてもあくまで想定した数字であるが、これまでの実績に限らず、検証を進めていきたい。
- （委員より発言）敷地面積等に制約がある中で議論を進めてきたが、来年度はまずアリーナの主な目的を再度掘り下げてもらいたい。その結果としてメリットがあるのであれば、勇気をもってサイズダウンに踏み切るのもよい。採算性ありきで議論するべきではない。今後はアリーナの競合も激しくなることが想定されるため、選ばれるアリーナとなるような施設にしてもらいたい。
- （アセットマネジメント推進課長より発言）全体としては公共施設の床面積を 30 年で 20%削減するという目標は掲げているが、一方で市を発展するための新たな機能も重視

したい。それと同時に削減すべき施設は削減し整理をしていく。負の財産とならないように、適正な規模感を検討していきたい。

- （委員より発言）本日の青葉小学校跡地において歴史文化施設ができることはすでに発表されている。観光業の目線からは、現状のようにバスの駐車場があると、お城に来る人にとって良い。またそばに県庁用の駐車場もあるが、休日は閉まっており、うまく活用する余地があるのではないかと思う。また歴史文化施設は昼間、アリーナは夜間が主な利用時間帯であり、機能のシェアリングができるのではないかと思う。
- （委員より発言）P.12の3④の項に、動線確保の検討についても追記いただきたい。観客と選手・演者、関係者の動線確保は非常に重要な観点である。
- （委員より発言）経済波及効果について、色々な形で地域産業への効果が期待できる。数値化することは難しいかもしれないが、それを期待して行政が先行投資するという姿勢を記載してもらいたい。
- （委員より発言）地元商店や地元有識者などで組成される有識者会議体を、施設開業後も設置するのがよいのではないか。アオーレ長岡が市民の関わり方は参考になる。
- （委員より発言）地域の人を入れて、地域がいかに稼ぐかという観点でどういうコンテンツをターゲットにしていくか議論してもらいたい。
- （坂井座長より発言）オンリーワンのアリーナになってもらいたい。敷地としては、お堀の中にあるということで、敷地面積等の制約や駐車場の課題があるものの、それ以上に価値がある敷地だろう。コンテンツや運営方法などについて来年以降の基本構想の中で詰めていってもらいたい。

4 閉会

- （アセットマネジメント推進課長より事務連絡）本事業に関する来年度以降の予定としては、頂いたご意見を参考にさせていただき、基本構想の検討に取り組んでいきたい。基本構想については、このエリアの将来像を踏まえて文化会館の再整備方針などをまとめていきたい。基本構想策定の過程において、今回議論いただいたホール・アリーナの最適な組み合わせや規模、スケジュール等をさらに検討していきたい。本懇話会の開催については今回が最終回となるものの、委員の皆様方には引き続きご助言等頂けると幸いである。
- （静岡市公共資産統括監より挨拶）市民文化会館の再整備について、単なる建替えだけではなく人口減少等の課題解決に向けて交流人口を増加させるような新たな仕掛けに取り組んでいきたい。今年度は本懇話会において色々なご意見を頂戴した。来年度以降は市民に対しても、人口減少・財政縮小の中でなぜ静岡市がこのような取組をするのか、といったことについても丁寧に説明していきたい。また、今回の検討対象地は、歴史文化の拠点づくりの中で駿府城公園の一角という特殊な地域である。なぜそこにアリーナなのか、という疑問に対しても、歴史文化エリア全体における市民文化会館やアリーナをつくる意味合いをしっかりと説明していきたい。本懇話会で頂いた意見については、来年度以降作成する基本構想の中で反映していきたい。

以上